

療養病棟におけるADL区分に関わる評価表について

月初め（月の途中からの入院又は転棟してきた場合には、入院又は転棟時）に、患者さんを評価しています。

■ ADL区分評価表（評価の内容にしたがって患者さんを評価しています。）

項目	自立	準備	観察	部分的な援助	広範な援助	最大の援助	全面依存	本動作なし
a. ベッド上の可動性	0	1	2	3	4	5	6	6
b. 移乗	0	1	2	3	4	5	6	6
c. 食事	0	1	2	3	4	5	6	6
d. トイレの使用	0	1	2	3	4	5	6	6

ADL区分は、上記表の4項目（a. ~d. ）に0~6点の範囲で最も近いものを選択し、その合計点数にしたがって右記のとおり評価しています。

合計点数	評価結果
0点から10点到該当	ADL区分1（軽度）
11点から22点到該当	ADL区分2（中度）
23点から24点到該当	ADL区分3（重度）

■ 評価の内容

項目	内容
ベッド上の可動性	横になった状態からどのように動くか、寝返りをうったり、起き上がったたり、ベッド上の身体の位置を調整する。
移乗	ベッドからどのように、いすや車いすに座ったり、立ち上がるか（浴槽や便座への移乗は除く）。
食事	どのように食べたり、飲んだりするか。（上手、下手に関係なく）経管や経静脈栄養も含む。
トイレの使用	どのようにトイレ（ポータブルトイレ、便器、尿器を含む）を使用するか。排泄後の始末、おむつの替え、人工肛門またはカテーテルの管理、衣服を整える（移乗は除く）。

0：自立	手助け、準備、観察は不要または1~2回のみ
1：準備のみ	物や用具を患者の手を届く範囲に置くことが3回以上
2：観察	見守り、励まし、誘導が3回以上
3：部分的な援助	動作の大部分（50%以上）は自分でできる・四肢の動きを助けるなどの体重（身体）を支えない援助を3回以上
4：広範な援助	動作の大部分（50%以上）は自分でできるが、体重を支える援助（たとえば、四肢や体幹の重みを支える）を3回以上
5：最大の援助	動作の一部（50%未満）しか自分でできず、体重を支える援助を3回以上
6：全面依存	まる3日間すべての面で他者が全面援助した（および本動作は一度もなかった場合）

ボディタッチは必要か	必要なし	→	0. 自立
		→	1. 準備のみ
		→	2. 観察
必要ある ↓ ↓ ↓ ↓			
体重を支える必要はあるか	必要なし	→	3. 部分的な援助
必要ある ↓ ↓ ↓ ↓			
本動作の半分以上を自力でできているか	できる	→	4. 広範な援助
できない ↓ ↓ ↓ ↓			
少しでも本動作に参加しているか	している	→	5. 最大の援助
	していない	→	6. 全面依存